

第53回景況アンケート調査 結果報告書

(令和4年1月31日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757

TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和3年10月～12月期》実績 《令和4年1月～3月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和3年12月22日（水）～令和4年1月17日（月）

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業211社
(うち回答企業数156社：回答率73.9%)

4. 回答企業数

製造業	54 社
織維工業	14 社
建設業・設備工事業	23 社
卸売業・小売業	29 社
飲食業・サービス業	36 社
計	156 社

5. 景況指数D Iについて

分析方法[景況動向指数（D I）による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

D Iについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要なっている。

D I 方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

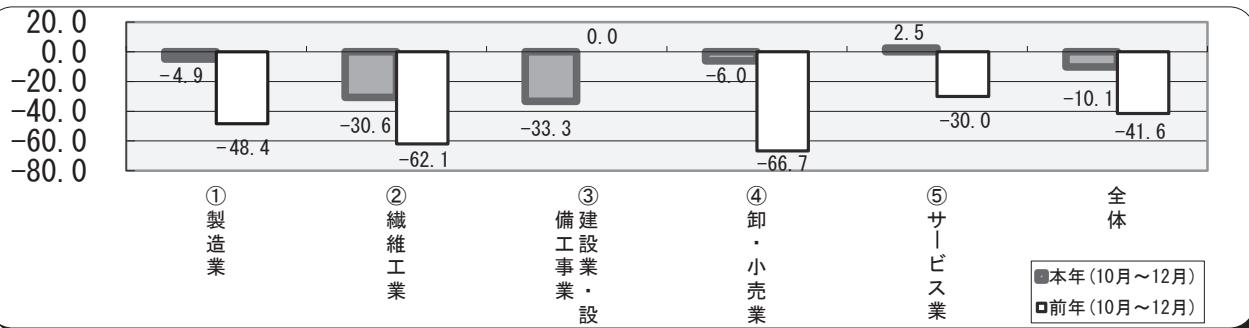
x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

I. 当期（10月～12月）の景況について

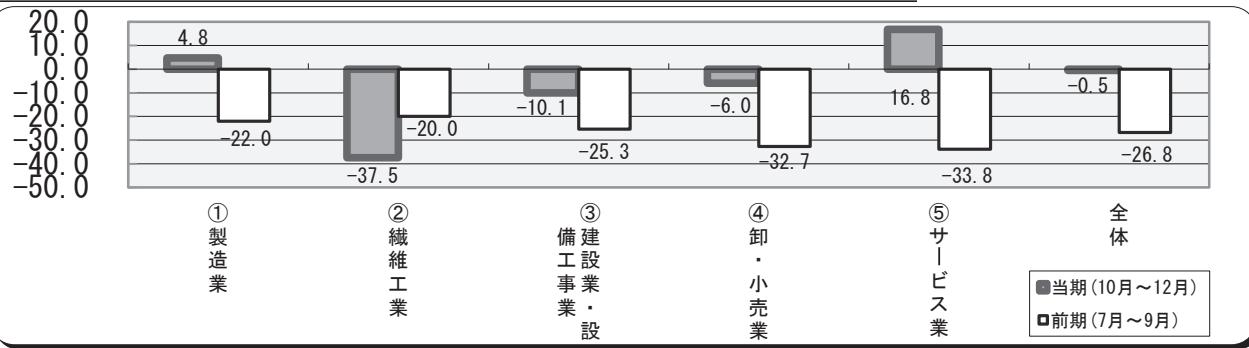
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲10.1ポイント（前年同期▲41.6）と、前年同期に比べて31.5ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業、繊維工業、卸・小売業でマイナス幅が減少し、サービス業では2.5ポイントと32.5ポイント上昇しプラスに転じた。一方で、建設業・設備工事業では、▲33.3ポイントでマイナスに転じ業況は悪化した。

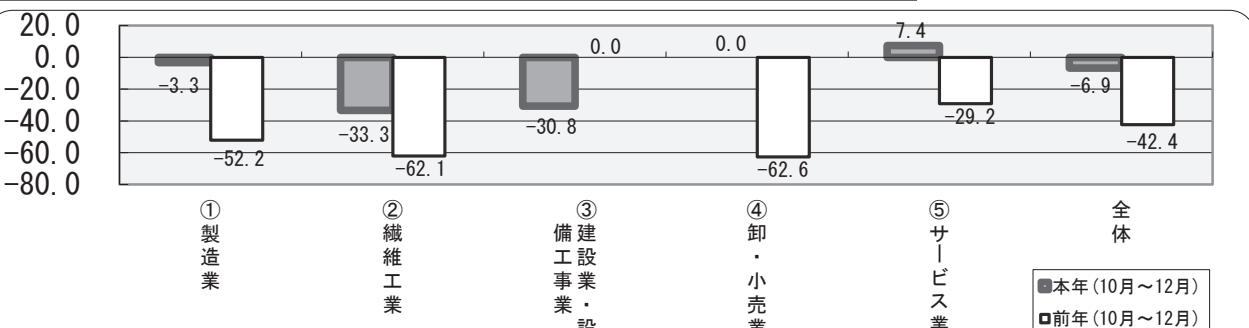
2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲0.5ポイント（前期▲26.8）と、前期（前3ヵ月間）に比べて26.3ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業4.8ポイント（前回比26.7ポイント）、サービス業16.8ポイント（前回比50.6ポイント）と回復しプラスに転じた。また、建設業・設備工事業、卸・小売業ではそれぞれマイナス幅が縮小した。一方で繊維業のみ▲37.5ポイントと17.5ポイント悪化した。

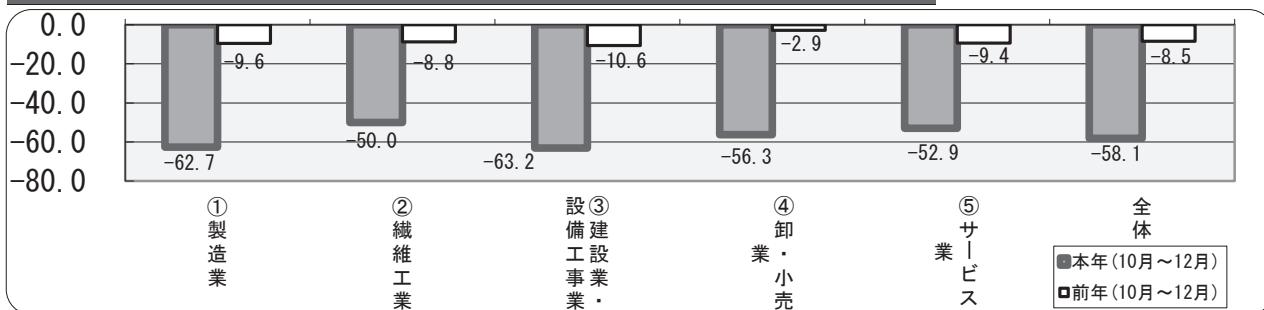
3. 売上高は前年同期に比べて



【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲6.9ポイント（前年同期▲42.4）と35.5ポイントマイナス幅が縮小している。業種別ではサービス業で7.4ポイント（前年同期▲29.2）と前年同期と比べ36.6ポイントプラスに転じ、回復傾向にある。卸・小売業では昨年と同等、製造業、繊維工業はマイナス幅が縮小した。一方で、建設業・設備工事業では▲30.8ポイントと大きくマイナスに転じ、悪化傾向にある。

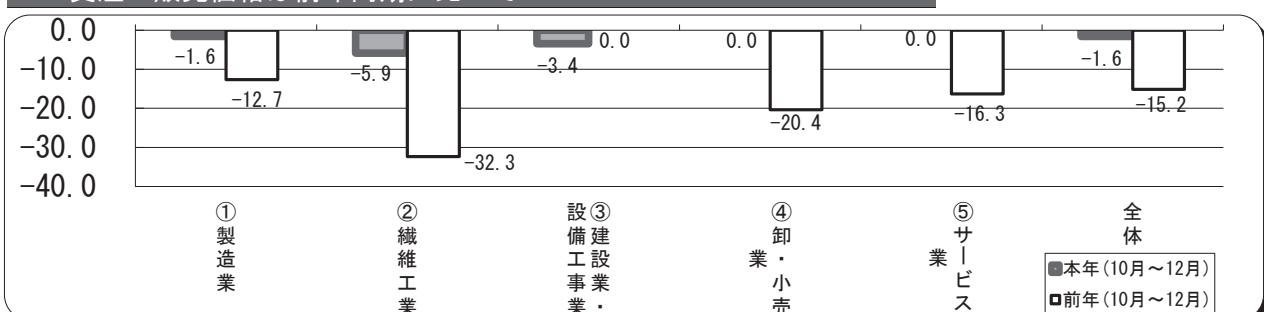
4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは、全体では▲58.1ポイント（前年同期▲8.5）と前年同期に比べて49.7ポイントマイナス幅が拡大した。業種別でも、全業種でマイナス幅が大幅に拡大しており、全体的に仕入価格が上昇傾向にある。

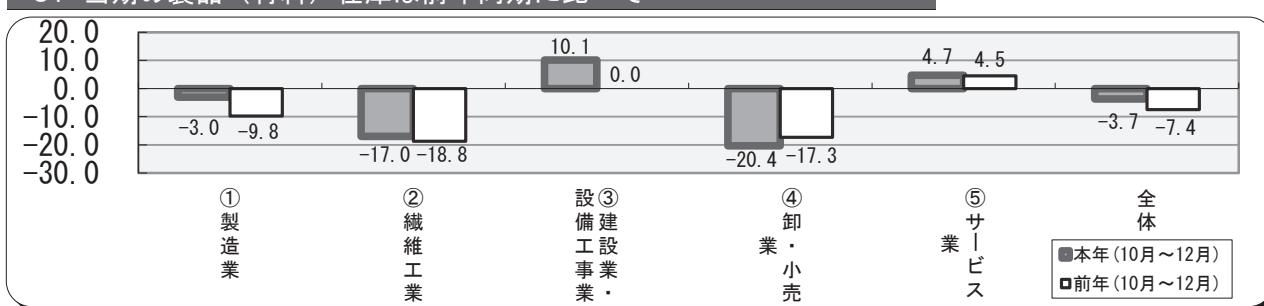
5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは、全体では▲1.6ポイント（前年同期▲15.2）と前年同期と比べ13.6ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業、卸・小売業、サービス業で昨年同期と同等という回答が多かった。一方、繊維工業は▲5.9ポイントとマイナス幅が縮小、建設業・設備工事業では▲3.4ポイントとマイナスに転じたが、昨年同期と大きな変化は見られない。

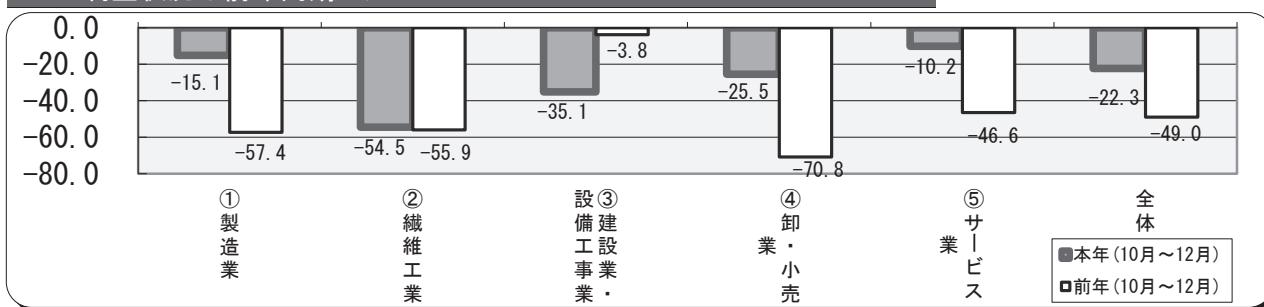
6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D Iは、全体では▲3.7ポイント（前年同期▲7.4）と、前年同期に比べて3.7ポイント回復した。業種別では、製造業、繊維工業、卸・小売業で在庫不足にある一方、建設業・設備工事業、サービス業は在庫過多の傾向にある。

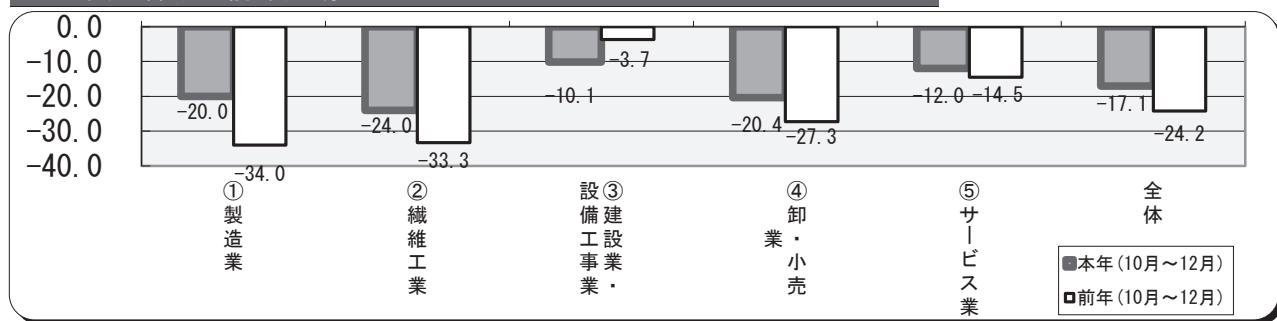
7. 利益状況は前年同期に比べて



【利益状況D I】

利益状況D Iは、全体では▲22.3ポイント（前年同期▲49.0）と、前年同期と比べて26.8ポイントマイナス幅が縮小した。業種別でも、製造業、卸・小売業、サービス業でマイナス幅が縮小している。一方、繊維工業はほぼ横ばい、建設業・設備工事業では▲35.1ポイントと昨年同期比▲31.3ポイントで利益状況は依然減少傾向にある。

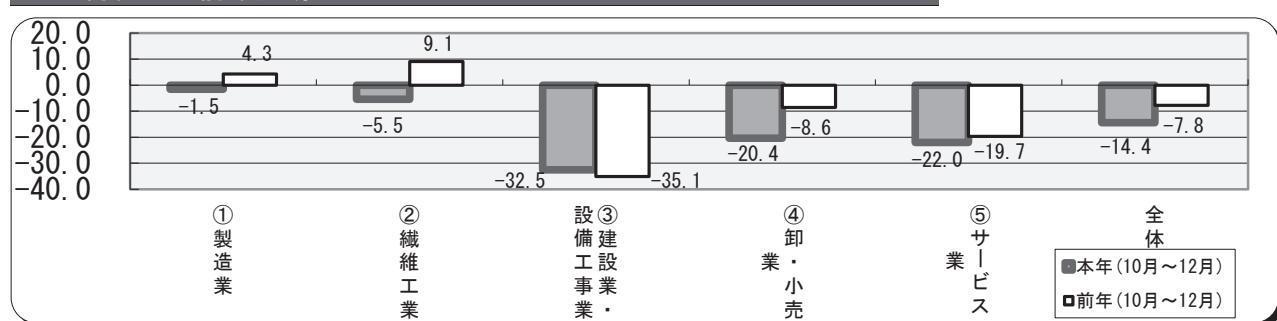
8. 資金繰りは前年同期に比べて



【資金繰り D I】

資金繰り D I は、全体では▲17.1ポイント（前年同期▲24.2）と、前年同期と比べて7.1ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では製造業は14.0ポイント、繊維工業は9.3ポイント、卸・小売業は6.9ポイント、サービス業は2.5ポイントマイナス幅が縮小し、前年同期と比べ回復しているが、建設業・設備工事業においては6.4ポイント悪化した。

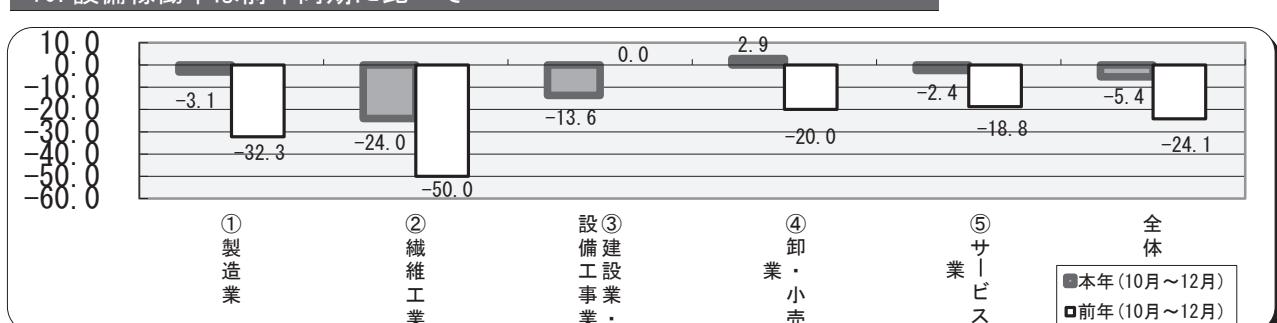
9. 労働力は前年同期に比べて



【労働力 D I】

労働力 D I は、全体で▲14.4ポイント（前年同期▲7.8）と、前年同期に比べて▲6.6ポイント悪化しマイナス幅が拡大した。業種別では、製造業が5.8ポイント、繊維工業が14.5ポイント、卸・小売業が11.8ポイント、サービス業が2.3ポイントマイナス幅が拡大し、全体的に労働力の不足が見られる。

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

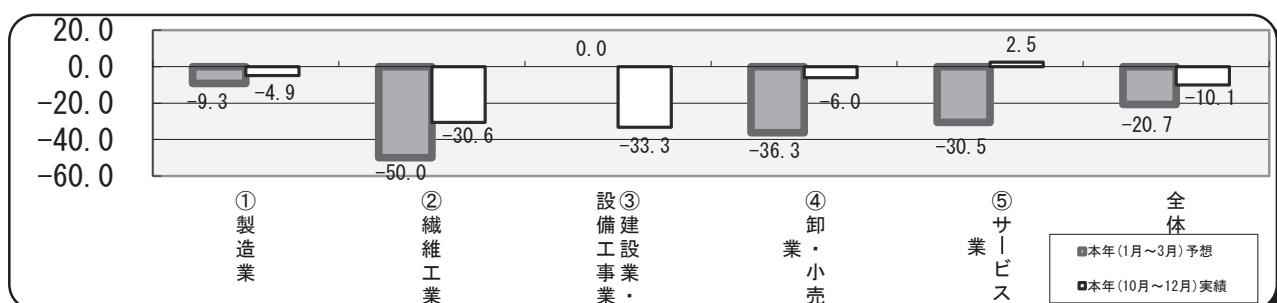


【設備稼働率 D I】

設備稼働率 D I は、全体で▲5.4ポイント（前年同期▲24.1）と、前年同期に比べて18.7ポイントマイナス幅が縮小。業種別では、製造業が29.2ポイント、繊維工業が26.0ポイント、サービス業16.4ポイントマイナス幅が縮小され、卸・小売業においては22.9ポイント上昇しプラスに転じた。また、建設業・設備工事業では、▲13.6ポイントとマイナスに転じ、整備稼働率は低下傾向にある。

II. 今後3ヵ月間(令和4年1月～3月)の推移の予想について

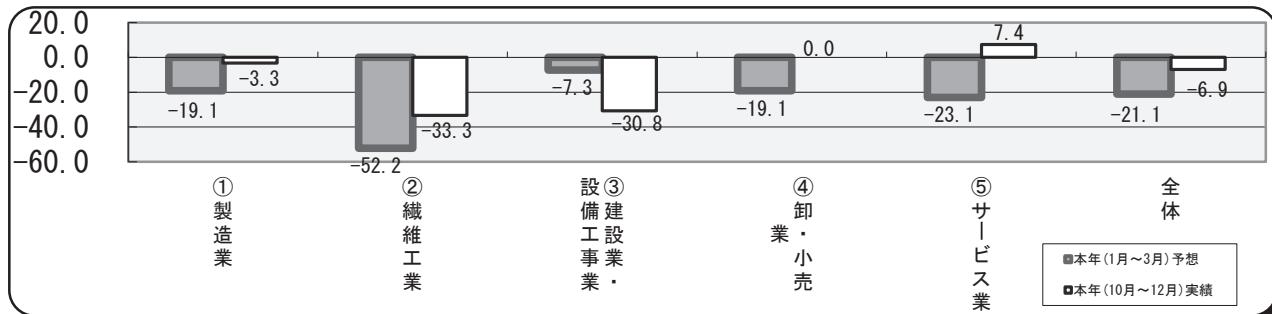
11. 業況は当期（10月～12月期）に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲20.7ポイント(当期▲10.1)と、▲10.6ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では、製造業が4.4ポイント、繊維工業が19.4ポイント、卸・小売業が30.3ポイント、サービス業が33.0ポイントとマイナス幅が拡大し、悪化するという回答が多く見られた。一方、建設業・設備工事業は今期(10~12月)とあまり変わらないと予想する回答が多かった。

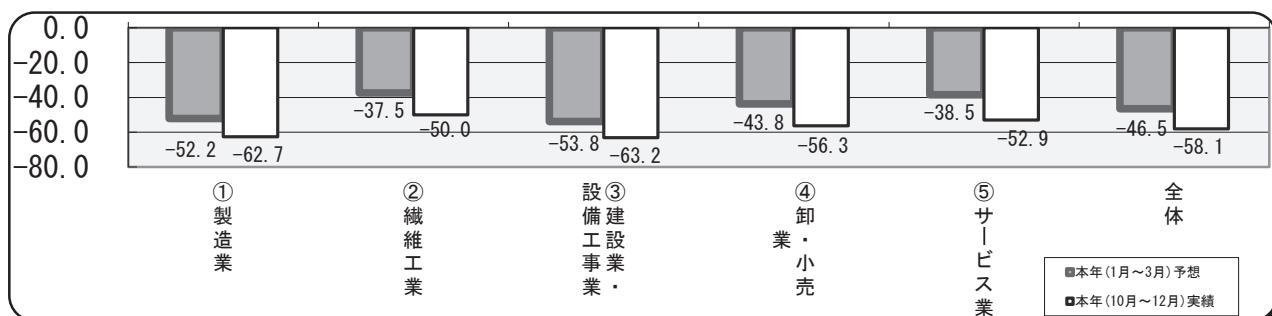
12. 売上高は当期(10月~12月期)に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲21.1ポイント(当期▲6.9)と14.2ポイントマイナス幅が拡大する見込みで、依然マイナス傾向。業種別では、製造業が15.9ポイント、繊維工業が18.8ポイント、卸・小売業が19.1ポイント、サービス業が30.5ポイントマイナス幅が拡大しており、悪化する見込み。建設業・設備工事業は23.5ポイントマイナス幅が縮小しているが依然悪化傾向の見込み。

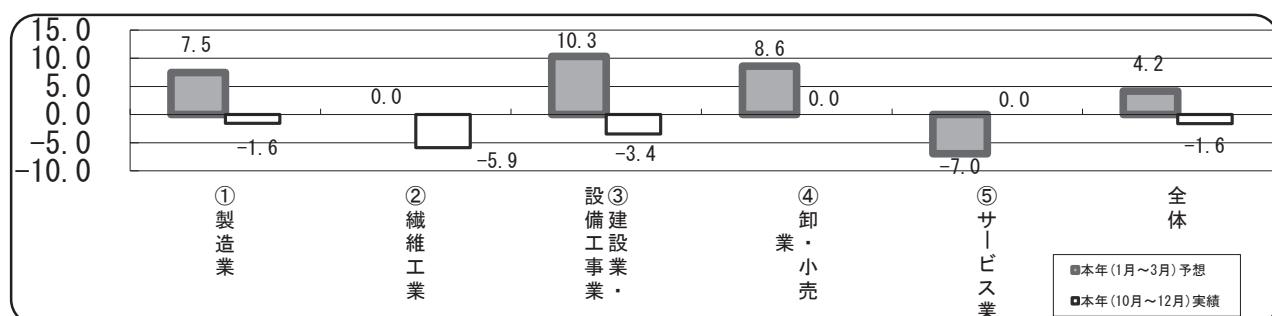
13. 仕入価格(原材料)は当期(10月~12月期)に比べて



【仕入価格(原材料) D I】

仕入価格(原材料) D Iは全体で▲46.5ポイント(当期▲58.1)と、11.7ポイントマイナス幅が縮小する見込み。業種別ではすべての業種で多少マイナス幅が縮小されているが、依然として価格の上昇が続く見込み。

14. 受注・販売価格は当期(10月~12月期)に比べて



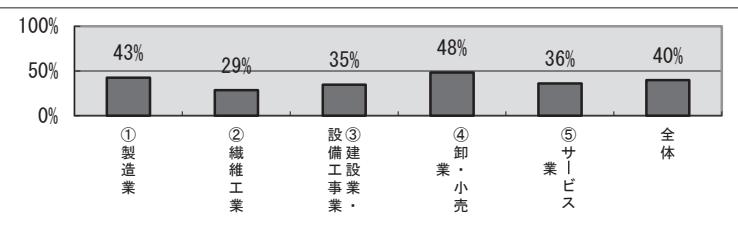
【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは全体で4.2ポイント(当期▲1.6)と、プラスへ好転する見込み。業種別では、製造業が7.5ポイント、繊維工業が5.9ポイント、建設業・設備工事業が13.8ポイント、卸・小売業が8.6ポイントといずれも価格の上昇を予想する回答が多かった。一方で、サービス業では、7.0ポイントマイナスに転じ、価格が下落する見込み。

III. 当期直面している経営上の問題点

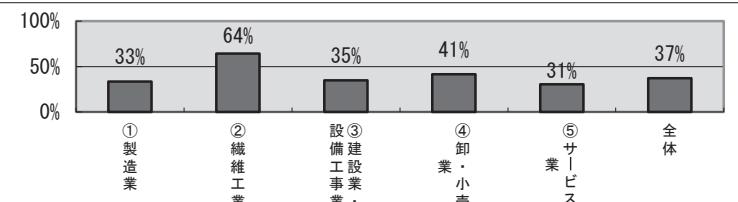
1. 経営の見通し（将来性）

①. 製造業	23
②. 繊維工業	4
③. 建設業・設備工事業	8
④. 卸売業・小売業	14
⑤. サービス業	12
全 体	61



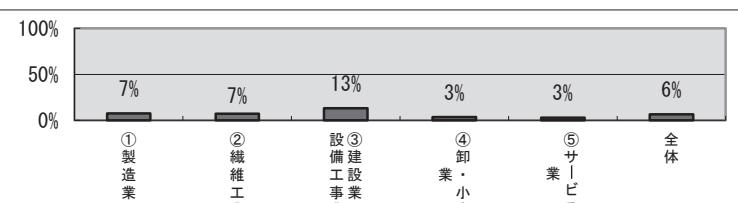
2. 売上（受注）の低下

①. 製造業	18
②. 繊維工業	9
③. 建設業・設備工事業	8
④. 卸売業・小売業	12
⑤. サービス業	10
全 体	57



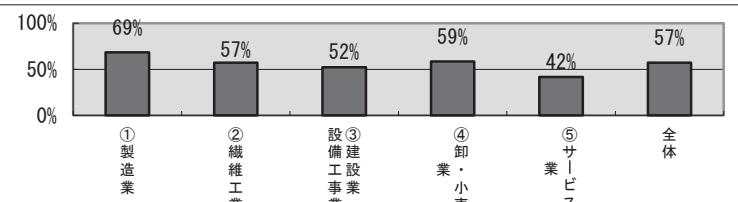
3. 工賃（請負）単価の低下

①. 製造業	4
②. 繊維工業	1
③. 建設業・設備工事業	3
④. 卸売業・小売業	1
⑤. サービス業	1
全 体	10



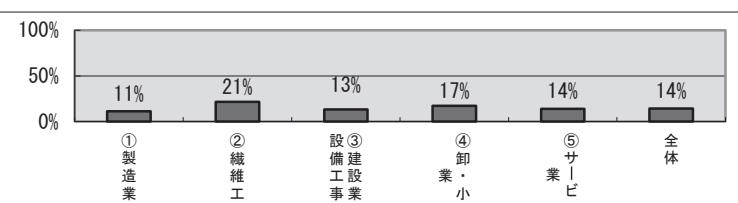
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇

①. 製造業	37
②. 繊維工業	8
③. 建設業・設備工事業	12
④. 卸売業・小売業	17
⑤. サービス業	14
全 体	88



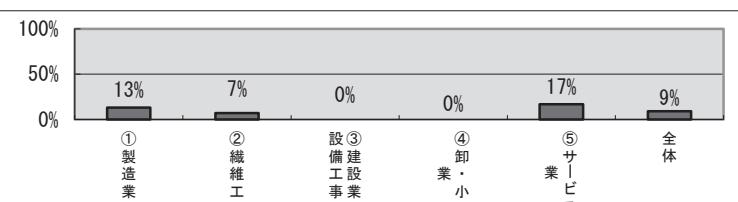
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）

①. 製造業	6
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	3
④. 卸売業・小売業	5
⑤. サービス業	4
全 体	21



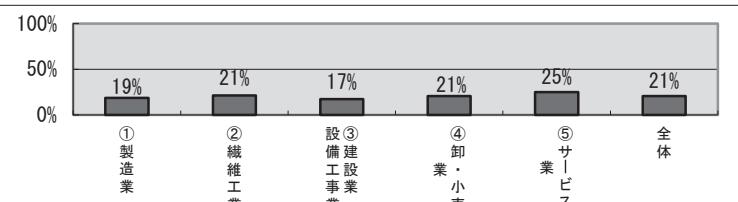
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）

①. 製造業	7
②. 繊維工業	1
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	0
⑤. サービス業	6
全 体	14



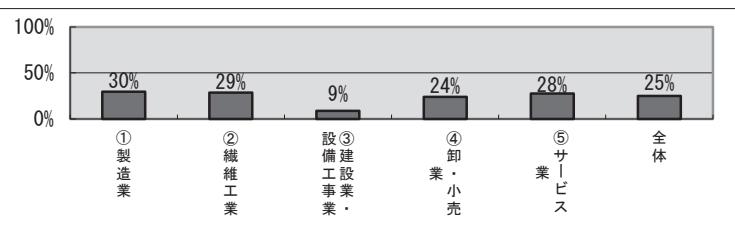
7. 経費（人件費・外注費）の増加

①. 製造業	10
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	4
④. 卸売業・小売業	6
⑤. サービス業	8
全 体	31



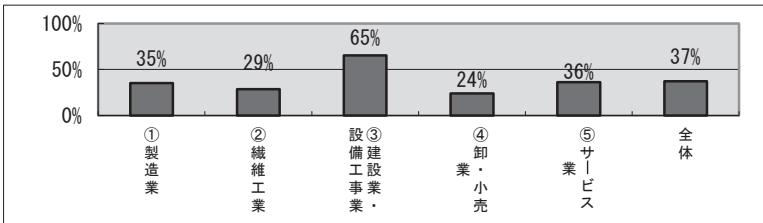
8. 設備・店舗・工場等の老朽化

①. 製造業	16
②. 繊維工業	4
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	7
⑤. サービス業	10
全 体	39



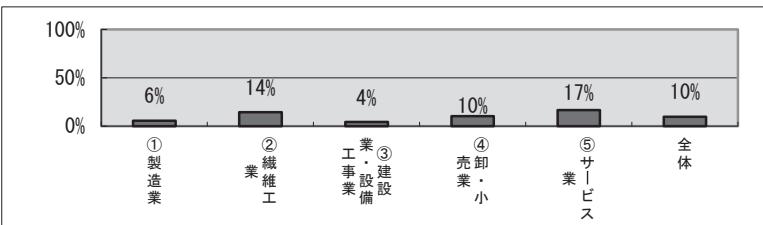
9. 従業員・技術者等の確保難

①. 製造業	19
②. 繊維工業	4
③. 建設業・設備工事業	15
④. 卸売業・小売業	7
⑤. サービス業	12
全 体	57



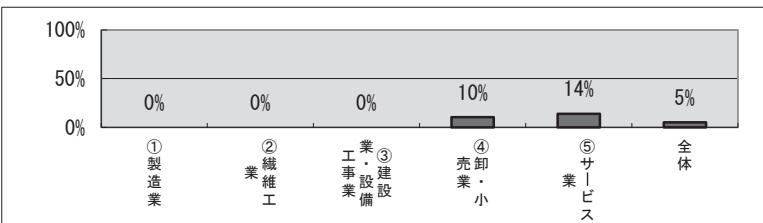
10. 消費者（製品）ニーズの変化

①. 製造業	3
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	3
⑤. サービス業	6
全 体	15



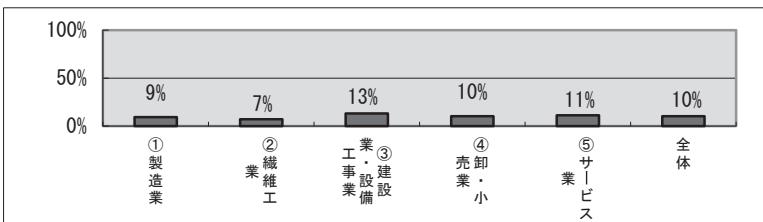
11. 業者間(大企業進出・新規参入)競争の激化

①. 製造業	0
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	3
⑤. サービス業	5
全 体	8



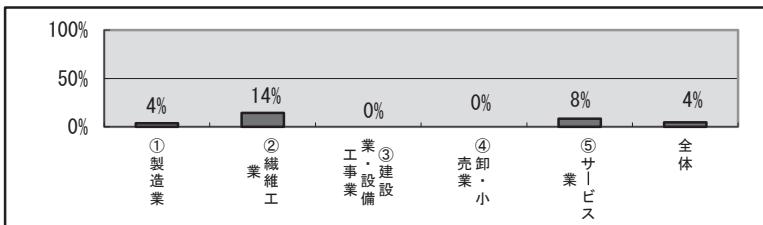
12. 後継者難と事業承継

①. 製造業	5
②. 繊維工業	1
③. 建設業・設備工事業	3
④. 卸売業・小売業	3
⑤. サービス業	3
全 体	15



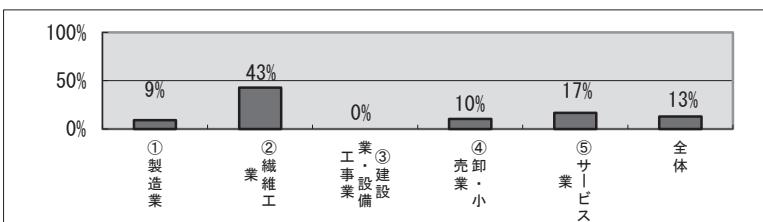
13. 円の動向による影響

①. 製造業	2
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	0
⑤. サービス業	3
全 体	7



14. 電気料金値上げに伴う対応

①. 製造業	5
②. 繊維工業	6
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	3
⑤. サービス業	6
全 体	20



【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「原材料（商品）仕入価格の上昇」と回答した企業が57%で最も多く、次いで「経営の見通し（将来性）」（40%）、「売上（受注）の低下」（37%）、「技術者（従業員）の確保難」（37%）、「設備・店舗・工場等の老朽化」（25%）と続いている。

どの業種でも「原材料（商品）仕入価格の上昇」を問題点として多く挙げており、1年前から右肩上がりで、歯止めが利かなくなっている。また、前回、前々回に引き続き、建設業・設備工事業では、「技術者（従業員）の確保難」（65%）が大きな課題となっている。

日常生活の回復に伴う外出機会の増加や自治体による需要喚起策の効果により客足が増える飲食・宿泊業を中心としたサービス業の回復がみられた。一方で、年明けのオミクロン株の急拡大により、再び受注・売上減少や客足が遠のくことが見込まれ、経営への影響を不安視する声が多い。

【景況に關することや直面している問題点等のコメント】

◎製造業

- ・ 製造工程管理及び製品品質管理の強化が喫緊の課題となっている。
- ・ 同業他社の在庫ショートにより、弊社への問い合わせが増加。プラスチック成形材料の流通が不安定で生産予定に支障をきたしている。注残増加。
- ・ 原材料の高騰が続いている。物流に遅れが出ている。
- ・ スバルの2次下請けなので、スバルの生産次第で大きく変わる。
- ・ 経営は運と隣り合わせであると感じる。運をよくすることは経営力アップにつながる。運の向上には5S活動は不可欠である。そのほか、地元の神社を大切にすること。外部環境を嘆く前に運の向上に向けて実践をすべきである。

◎繊維工業

- ・ 借入したコロナ資金も令和4年4月から返済が始まり、売上が上昇しないと大変苦しくなるので心配。追加融資も厳しく、どうなるか不安。

◎卸・小売業

- ・ 今後3か月の予想は現在の状況での場合、オミクロン増により何かしらの制限がでれば悪化へと変化する。
- ・ 工業薬品卸売業ですが、仕入れの値上げが著しく、これまでにないくらいハイペースでメーカーは強気。販売単価の反映が遅れていて粗利が落ちている。
- ・ 材料や経費上昇で値上げを予定。
- ・ 固定資産税・税金の見直し。

◎飲食・サービス業

- ・ 今後直面する問題点として、一昨年からの緊急融資が、今年から返済の時期を迎える、キャッシュフロー対策に追われます。再びコロナの感染が拡大傾向に入り、まん延防止などが導入されたりすると、大幅な売上の低下が予想されます。国からの緊急避難的対策（返済などを含めた）を要望します。
- ・ 営業（委託）においては、社員の定着化が課題である。
- ・ 仕事のやり方を変化させていきたいと思っている。
- ・ 22年4月以降コロナ感染拡大が収まらないときは、業務の停止・廃業も考えなければならない。仕事が止まると同時にコロナで受けた融資の返済が始まるので、どのように対処したらいいかわからない。是非、良い案・指導をお願い致します。

足利市のチラシ折込調査レポート（2021.11）

調査地：足利市伊勢町

2021年11月の足利市の折込広告枚数は311枚で前年比マイナス4.3%（前々年比はマイナス19.8%）であった【※栃木県4地区平均では361.8枚、前年比+6.5%】。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の59.2%であった。次いでB3(A3)サイズの37.3%となり2種類のサイズが95%以上を占めた。また曜日別では、金曜日が最も多く全体の20.9%に上り、次いで土曜日の19.0%、火曜日の17.0%、水曜日、木曜日、日曜日、月曜日と続いた。

業種別では食品スーパーが64枚（前年比-9.9%）で、先月に引き続き首位となった。2位は医薬・化粧品で53枚（前年比+35.9%）、3位は衣料用品店で26枚（前年比+8.3%）であった。4位は輸送機器で21枚（前年比+23.5%）、5位は家電・精密機器で20枚（前年比-23.1%）となり、上位5業種の中では、医薬・化粧品、衣料洋品店、輸送機器が前年を上回る一方、食品スーパー、家電・精密機器がマイナスとなった。

		6月	7月	8月	9月	10月	11月
足利	枚数(枚)	286	314	257	242	329	311
	前年比(%)	15.8	8.3	0.8	▲10.4	9.3	▲4.3
	前々年比(%)	▲23.5	▲18.7	▲27.4	▲30.7	▲4.9	▲19.8
栃木県平均	枚数(枚)	349.5	367.0	302.3	299.8	373.5	361.8

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2021年11月1日～30日)

順位	業種（細分類）	枚数			前年比 (%)	前々年比 (%)
		21年	20年	19年		
1	食品スーパー	64	71	83	-9.9	-22.9
2	医薬・化粧品（ドラッグストア・通販等）	53	39	36	+35.9	+47.2
3	衣料洋品店	26	24	34	+8.3	-23.5
4	輸送機器（自動車・カー用品等）	21	17	24	+23.5	-12.5
5	家電・精密機器	20	26	29	-23.1	-31.0

サイズ別枚数(2021年11月1日～30日)

曜日別枚数

(2021年11月1日～30日)

サイズ別					曜日別						
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)	日	月	火	水	木	金	土
0	6	116	184	5	34	12	53	52	36	65	59
0.0%	1.9%	37.3%	59.2%	1.6%	10.9%	3.9%	17.0%	16.7%	11.6%	20.9%	19.0%

調査：(株)栃木読売IS